"しんじ"を信じる　京都府議会議員

二ノ湯しんじ通信

第30号

編集・発行
二ノ湯しんじ事務所

〒616-8167
京都市右京区太秦多藪町44-1
TEL：075-862-1355
FAX：075-862-1350
ninoyushinji@palette.plala.or.jp
URL:http//www.ninoyu.net

今こそ、伝統が未来を拓く！

大自然と調和した潤いある生活の再生に向けて

文化首都・京都が「日本らしい生活」を示そう！

文化庁が京都に全面的に移転します。その際、文化を広く捉え、観光や伝統産業等に文化行政が拡大されるようです。京都は「文化首都」になるとの期待は高まります。

ところで、文化とは「ある集団が共有する知識や道徳や慣行などの総体」ともされるので、日本文化とは、簡潔に「日本らしい生活全般の在り方」と言えるでしょう。東京の政治や経済は「医療・年金・介護や国防等」のために「ＧＤＰを増やす」という現実に即した一つの答えを出しています。それに対して京都が「文化首都」であるなら、もう一つの答えとして「日本らしい生活」を示すべきではないでしょうか。

ところで、最近伺った話ですが、①「現場でプレカットした集成材を組立てる住宅ばかりになり、工場のラインに乗る木しか切り出されない。山の収益がより減少しさらに荒れていく。」（木材産業の方々）②「０歳から毎日保育園に預けると子供は落ち着かず親も親にならない。０歳児の保育支援は必要だが、預かり保育は反対。子育てに対する企業等の対応こそ重要。」（保育園経営者の方々）

①と②は、「経済の仕組み」が「人間の生活」ひいては「自然環境」をも変えている例です。地方創生の名のもとで是正が求められる東京一極集中も、その最たるものです。

合理的な経済活動のために集積した企業や大学に向けて、地方から首都圏へ人が移動し続ける結果として、過密な都市・過疎の地方とも に、地縁血縁が弱まり、生活の仕方や知恵が継承できずに苦しんでいるのです。

京都が「文化首都」を名乗るならば、「日本らしい生活」とそれを支える「経済の仕組み」を提案する義務があるのです。その気概を持ち、４月の京都府知事選挙を通じて、しっかり考えたいと思います。

旧年中は大変お世話になりありがとうございました。
戌戌は昨年出た芽を大切に育て結実させる年とのこと、
皆様の努力が報われる良き年であることを祈念します。
本年も変わらぬご指導を宜しくお願い申し上げます。

自民党を代表して質問をします！

2月9日(金)14：15頃～　KBS京都テレビをご覧ください！

京都の力をしんじる夕べ開催のご案内

と　き：平成30年３月８日（木）
18:30～講演・対談「これからの京都府」 **19：45**～ 懇親会
ところ：ANAクラウンプラザホテル京都（地下鉄二条城前駅２番出口　徒歩１分）
会　費：**8,000円**　＊政治資金規正法第８条の２に規定する政治資金パーティーです。

４期１６年京都府知事を務められた山田知事は今年４月をもって勇退されます。これまでの京都府の歩みを、そして今後の京都府を展望し、若い政治家に託すべきことを語って頂きます。

京都府議会議員　二ノ湯しんじ

ゲストスピーカー：**京都府知事　山田啓二**（やまだけいじ）氏

昭和29年４月５日生まれ、昭和52年３月東京大学法学部卒業、昭和52年４月自治省(現 総務省）入省、昭和58年７月和歌山県総務部地方課長、昭和60年９月国際観光振興会総務部職員（サンフランシスコ観光宣伝事務所次長）、平成元年４月高知県総務部財政課長、平成４年１月自治省行政局行政課理事官、平成４年７月　内閣法制局参事官、平成９年７月国土庁土地局土地情報課長、平成11年８月京都府総務部長、平成13年６月京都府副知事、平成14年４月京都府知事（４期）、平成23年４月全国知事会会長（４期）、現在に至る。

9月22日　本会議質問

ここでは、紙面の都合で一部のみ掲載しています。府議会ＨＰでは全ての質問がご覧いただけます。
■http://www.pref.kyoto.jp/gikai/

今上陛下ご退位について

（二之湯）「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」の施行を控え、陛下のお言葉に示された御心に適う象徴天皇制の下での国民のあり方を、皇室の父祖の地である京都から示すことが大切だ。それが、国民の絆となり、世界に対する平和のメッセージにもなると考えるが、知事の所見を伺う。

（山田知事）京都府知事として、今上陛下に接する機会に「京都は父祖の地として、懐かしくしのばれる」とのお言葉をいただき、府民に対し暖かく接して頂いた。

これまで、全身全霊をもって、国民統合の象徴としての役割を果たされるとともに、日本と世界の平和と国民の安寧を願い続けてこられた歳月を想うとき、陛下に対して、深い敬意と感謝の気持ちをお伝えしたい。

同時に、皇室の弥栄を願いながら、日本の文化を次の世代に繋げ発展していくために、京都で出来ることを積極的に提案してまいりたい。

（二之湯）知事が深い敬意と感謝の念を京都府議会で述べられたことに感謝申し上げたい。また、京都に出来ることとしては、皇室の祈りのための環境の整備があると思う。加えて、天皇制の根幹にある「国民は大御宝（おおみたから）である」という考えは、日本が誇れる尊い平和の文化であり、世界に示していけると思う。

京都府の生産性向上について

（二之湯）人口減少社会では、限られた労働力でイノベーションを起こして生産性を高めるために、多様な人材の確保と、そのための在宅勤務等の働き方改革が重要だ。京都府庁が範を示しノウハウを蓄積し、来年度中に、産官学民のプラットフォームを構築すべきではないか。

（大谷職員長）府が設置した「公務部門におけるテレワークの取扱いに関する研究会」からの提言に基づき、今年度中に、育児・介護を行う職員を対象に在宅勤務等の試行を行い、その後、全職員への導入を検討してまいります。

京都府域では既に取組事例も出ているので、相互に情報交換や連携を図るプラットフォームづくりを進め、公務・民間を含めた府内全体の人材確保と生産性の向上につながるよう、取組を加速してまいります。

森林経営のあり方について

（二之湯）京都府内には、適正な森林管理等ができない森林組合が多い。林野庁で検討しているように、民有林から経営権や所有権を地方公共団体に移し、境界明確化、管轄を超えた森林経営等を行い、収益が出る森林経営を目指し、雇用・防災・資源供給等の公益的機能の発揮と税金の投入軽減を図るべきと考えるが、所見を伺う。

（綾城農林部長）ご指摘のように、京都府には民間だけでは管理・経営が出来ない森林もある。市町村が森林を保有し管理・経営を行う場合も想定され、国では事前の測量調査等の財政措置がなされている。ただ、市町村には技術者が不足しており、また財政的負担も懸念されるため、財政措置の拡充を国に求める等、府としても、市町村をサポートしてまいります。

府議会日程

2月15日～3月12日

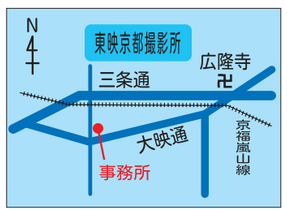
山田知事が編成する最後の平成30年度当初予算案の審議が中心に行われる予定です。

次の知事が当選後の6月議会で大型の補正予算を組む余白を残したいわゆる「骨格的予算」ですが、年度当初から行うべき事業についてはしっかりと予算が計上されます。

私は予算特別委員会の委員長として、充実した審議、円滑な進行に尽力します。

お困りごとなどご相談ください

府・市の役割分担は分かりにくいものです。まずは私の事務所にお問い合わせください。



◆ともに語り合いましょう！

奇数月は「セミナー＆懇親会」（市内ホテル等）偶数月は「居酒屋真友会」（右京区）を開催しています。ぜひご参加ください。

また、随時座談会なども受け付けます。

世界の中で京都を捉え、真価を活かす！

歴史を紐解けば、京都は都であったために国内外から多くの人や文物が流入し発展した都市と言えます。ですから、以前より「首都圏や海外の力を上手に取り込むべき」と主張し、私自身が「国際都市に相応しい国際人でなければ」との想いを持っていましたが、一歩前進できた平成29年でした。

イタリア　7月10日～20日

ボローニャフィルハーモニー管弦楽団の特別演奏会での交流を切り口に、学術や産業など他の分野に交流を展開しようと、京都府知事親書を携えてイタリアはエミリア・ロマーニャ州を訪問しました。

〈ボローニャ大学学長、ボローニャ市長と〉

欧州最古のボローニャ大学を訪問。包括提携をしている京都大学をはじめ、京都の諸大学との交流に期待。学長も市長も好意的で、京都を訪問することを希望された。

〈ボローニャのフィルム修復産業と映画祭〉

深夜の広場で三千人が「七人の侍」（黒澤明）を鑑賞。ボローニャは、フィルム修復を産業とし、世界最大の復元映画祭も開催。その経済的・文化的恩恵を市民に還元。

〈生ハム工場、ワイナリー〉

生ハムもワインも昔は田舎の家内工業で生産されましたが、今は資本を受入れ企業となり、10人企業でも国際マーケティング担当者が世界中で販売努力をしている。

〈エミリア＝ロマーニャ州知事との会談〉

州知事に山田知事からの親書を手渡し、芸術にとどまらず幅広い交流を打診。州知事も「行政・大学・産業界等の訪問団で、来年には京都へ行きたい」と応答された。

まとめ

経済大国日本に非常に好意的と感じました。零細企業でも世界市場を視野にビジネスをしているので、「さもありなむ」と思います。日本は、人口が増加した高度成長期の名残で、多くは国内市場に留まりがちと指摘されますが、特に京都では伝統産業や芸能、1次産業も世界を視野にする姿勢を見習うべきと痛感します。

フィンランド・イギリス　8月27日～9月3日

「京都府が抱える重点課題への対応や、今後の中・長期的な施策展開の検討、さらには、それらを踏まえた議会からの政策提言に資するため」派遣されたフィンランド・イギリス調査団に団長として参加しました。

〈職業訓練学校にて〉

緊密な産官学連携のもと幅広い職業に対応するカリキュラムがあった。移民・難民への語学や基礎的な教育も行い、学内の多様性と彼らが意欲的に学ぶ姿に驚いた。

〈北部の総合大学オウル大学にて〉

① inclusive education(全ての人が特性に応じて同じ学校で学ぶ)、② coding（プログラミング手法を多方面に活かす)、③主権者教育（民主主義社会を支える人材育成）を調査。

〈文化プログラムの説明、パラリンピックマスコット〉

スポーツ無関心層や若者を巻き込む目的だったが、障害者のアスリートとアーティストのイベントや聖火リレーが注目され、社会的地位を向上させる成果があった。

〈ロンドン東部 Newham 区の説明、サッカー場〉

オリンピックで競技場や選手村が建設されたことで再開発され、オリンピック後もそれらが上手に活用され、住民が増え地域の価値が格段に向上した好事例だった。

まとめ

移民問題で騒がれる欧州。日本でもダイバーシティー（多様性）が言われますが、欧州のそれは次元が違います。京都は、外国人観光客で賑わうとそれを嫌悪する人も増えると指摘されました。人口減少が進む中、政府は観光立国を、オール京都では留学生増加を戦略としています。共生のあり方を模索する時期だと思います。

〈身辺雑記〉

○昨年に続き、9月にボローニャフィルハーモニー管弦楽団によるオペラコンサートを約1000人の来場のもと開催できた。スタンディングオベーションで幕を閉じイタリア人も上機嫌だった。今年も開催予定です、乞うご期待！

○京北産コシヒカリが収穫できた。京北は水が綺麗で、ひいき目抜きでかなり美味しい。しかし、日照時間が短く単位面積あたりの収量は少ない。稲作農業の経営の厳しさがよく理解できた。

○10月の衆議院選挙、京都4区には田中英之候補の支援に小泉進次郎氏も駆けつけてくれた。西院駅周辺は空前の人だかりで驚いた。「進次郎に負けるな、真士！」との激励も頂き有難かった。

○3人の息子は、アニメ「ポケモン」が好きだ。主人公はサトシだが、タケシとシンジが登場する話があるようで、「二之湯家だ！」と教えてくれた。ちなみにシンジはサトシのライバルらしい。

○この年末は今までで一番しっかり掃除をした。多くのものを捨てた時に気がついた、「日々の忙しさに少し立ち止まることを忘れている」と。動の中の静、深く息をして己を見つめる時間が、より良い仕事と生活のために必要だと思う。